



令和3年度 宿利原小学校だより

宿っ子

8月



学校のホームページは上のQRコードからお入りください



この夏のイベントから思うこと

～感動を言葉にしたい～

校長 有留 盛昭

この夏、広島での平和記念式典で6年生児童が発表した「平和への誓い」では、次の3つの言葉が強く印象に残りました。

- ①私たちの使命は、世界中に、そして次世代に、平和への思いを伝えることである。
- ②本当の別れは、会えないことではなく、忘れてしまうことである。
- ③誰もが幸せに暮らせる世界を次の世代に引き継いでいきたい。

戦後76年目になる今年、長崎の平和記念式典では92歳になる岡信子さんが、御自身の被爆体験を語ってくださいました。被爆者への偏見や辛い体験を思い出したくない気持ちから、これまで誰にも(家族にも)語ることはなかったそうです。5年ほど前から「残されたものの務め」として、二度と繰り返してはならない惨禍を、多くの人々に話し伝える活動を始めたそうです。



私たちは日常の様々な場面で、平和について改めて考えたり、痛ましい事件や事故に心を痛めたりすることがあります。様々な出来事を通して心が動いた時、それをしっかりと見つめ直し、よりよい未来に向けて発信することが大切なのだと感じました。「感じ」「考え」「表現する」能力は、宿利原小学校の重点的に育成する力にもなっています。

6年生教室の縦(前黒板から後黒板)の長さは8m40cmです。今年のオリンピック男子幅跳びの金メダル記録(ギリシャのミルティアディス選手)も、それとほぼ同じで8m41cm(銀も同記録)でした。すごい記録ですね。オリンピックは、どの競技でも卓越した技能、チームワーク(友情)、フェアプレー(敬意・尊重)が見られ、たくさんの感動を私たちに届けてくれました。



8月24日からはパラリンピックが始まります。パラリンピックは、障害の状態や程度によってルールを変えたり、同じ競技でもクラスを変えたりするため、陸上競技だけでも167人の金メダリストが誕生します。例えば、走り幅跳びだけでも、男女合わせて21人の金メダリストが誕生するのです。男子走り幅跳びT64(トラック競技・片足義足・膝下切断)というクラスでは、自己ベスト記録8m48cmをもつドイツのマルクス・レーム選手が、登場します。気付いたでしょうか。今年のオリンピック記録を超えているのです。競技用義足のバネ板技術向上により、この数年で一段と記録が伸びたとはいえ、驚くべき記録です。走り幅跳びには、クラスは違いますが日本人選手が、9人出場します。中でも男子T63(トラック競技・片足義足・膝上切断)のクラスに出場する山本篤さんは、自己ベスト記録6m70cmをもつ、金メダル候補の一人でもあります。

パラリンピックを応援していると、多くの場面で選手をサポートする方々の姿や選手同士の称え合い等を目にするとおもいます。また、障害をもつことになった各選手のこれまでの生き方に触れることもあると思います。きっと選手たちのもつ**勇気**や困難を乗り越えようとする**強い意志**を感じ取るとともに、私たちの心は揺さぶられるはずですよ(インスピレーション)。また、社会における多様性を認め、創意工夫によってみんなが同じスタートラインに立てることに気付くでしょう(公平)。パラリンピックでの出来事として、終わらせるのではなく、世界中の誰もが幸せになるための行動に繋がると素敵ですね。